

様式第2号

視察研修先	愛媛県松山市議会	氏名	野口 康一郎
視察研修項目	松山市消防団について		
<p>【視察先概要】</p> <p>松山市は、愛媛県の中央部に位置し、瀬戸内海に突き出した高縄半島の西部及び忽那諸島などから構成されている。温暖な気候で日照時間が多く、雨の少ない地域で台風等の災害も少ない穏やかで恵まれた気候の場所。人口は約50万人で道後温泉や松山城などの観光名所がある。</p> <p>【視察内容】</p> <p>全国的に消防団員の減少が続くなか、松山市は消防団員確保については様々な取り組みをしていて、消防団員が増加傾向にある。地域は自分たちで守るという意識が多くの市民の方々に根付いている。</p> <p>【感想・所見】</p> <p>消防団員確保に向けて松山市では全国に先駆けて機能別消防団員制度を平成17年に導入している。そのひとつが郵政消防団である。郵政職員は郵便物の配達により、地域の事情や地理に詳しいため、この特徴を活かし実際の災害があった場合には災害情報の収集や本部への連絡、危険箇所の巡視などに限定して活動しているとの事。地域の事を知っている郵便局員さんに依頼する取り組みは素晴らしいと感じた。</p> <p>また、大学生消防団も採用している。30歳未満の団員が減った事をうけて若手の団員の確保を目的としている。松山市には4つの大学があることに着目し団員の募集をしているとの事。大学生の役割としては災害があった場合の消防活動のサポート(物資管理・物資配布・応急処置)などで災害現場には行かないが避難所などでの活動をメインに活動するとの事。令和5年からは専門学生の入団も認めているとの事。理由としては地元の人が多いため。大学生のメリットとしては地域貢献をする事で就職活動への後押しになる。お互いのメリットになっていると感じた。</p> <p>地元の企業が協力して事業所消防団員もおり基本団員の約60%がサラリーマン団員。常には仕事をしながらではあるが災害が発生した時には応急処置が出来るようにと休憩時間を利用して訓練や研修も行っている。事業所消防団の防災服には企業のロゴマークが書いているので企業PRにもなっている事は素晴らしいと感じた。</p> <p>女性消防団員は現在約200名在籍していて救命講習や地域の防災活動への参画など有事の際のサポート役として年間100件ほど訓練を行っているとの事。避難所では女性目線のきめ細やかな対応を求められる事もあるとの事で訓練や研修には積極的に参加してくれる方々が多いとの事。</p> <p>全体を通して自分たちの街は自分たちが守るんだという意識が高いのに驚いた。寒河江もこの意識改革をしていかなければならないと感じた。</p>			

様式第2号

視察研修先	愛媛県今治市議会	氏名	野口 康一郎
視察研修項目	クリーンセンター(バリクリーン)について		
<p>【視察先概要】</p> <p>今治市は愛媛県の北東部に位置し、高縄半島の東半分を占める陸地部と、芸予諸島の南半分の島嶼部からなる。今治タオル・造船が有名で広島県の尾道市に続く「瀬戸内しまなみ海道」があるためサイクリストが集まるまちでもある。人口約15万人で今治城や今治タオル美術館が主な観光名所。</p> <p>【視察内容】</p> <p>ゴミ処理施設と防災拠点2つの機能を持つ施設。新しいゴミ処理施設建設を建設検討中に東日本大震災が発生し、震災の教訓を活かすため施設自体の地震対策は勿論のこと、地域全体として災害時の防災拠点になるように整備した。</p> <p>【感想・所見】</p> <p>視察先に行く前に今治市のHPでバリクリーンを閲覧した時に素晴らしい考え方の施設だなと感心した。普段、ゴミ処理場というと汚いとか臭いなどのイメージが付くような場所だが、そこをあえて人が集まる施設にしたというのには驚いた。実際に施設を拝見すると中はとても綺麗でとてもゴミ処理施設だとは感じないほどだった。</p> <p>バリクリーンの特徴としては「フェーズフリー」平常時と災害時という時間的なフェーズを取り払い、もしもの時だけでなくいつもの時も役立ち価値のあるものにするという考え方はとても参考になった。いつもは地域の人々がスポーツやイベントで交流できるように使い、もしもの場合は避難所として利用することができる。避難所としても320人が一週間過ごせるように食料品や日用品、パーテーションや災害用トイレや紙おむつや粉ミルクなど備蓄品も充実している。また、非常時のインフラも充実している。ゴミ処理した際の熱を利用し発電もできるし、生活用水を再利用する事もできるので避難生活に必要なトイレ、洗面、入浴、洗濯もできる。</p> <p>ゴミ処理で出たエネルギーを発電に利用することで施設の電気代もまかなえるだけでなく近くの公共施設にも供給し、更に余剰電力は売却しているとの事で全てが自己完結できる施設は市民の皆様にとっても安全安心で親しまれる施設だと思う。</p> <p>バリクリーンを建設するにあたり場所の選定やゴミ処理施設の整備基本計画など決める事が多く、完成するまで13年の時間が掛かっている。</p> <p>元旦に起きた能登半島地震や東日本大震災などの大規模災害はいつ起きるか誰にもわからない。寒河江は幸いにして今のところ大きな災害には見舞われていないが、必ず災害がないとも限らない。災害が起こった後に避難生活を送る事になる市民の皆様が安全・安心だと思ってもらえる施設は必要不可欠だと感じた。寒河江ではどのようにしていくか議論していく必要があると感じた。</p>			

様式第 2 号

視察研修先	愛媛県四国中央市議会	氏名	野口 康一郎
視察研修項目	子ども若者発達支援センターについて		
<p>【視察先概要】</p> <p>四国中央市は平成 16 年に 2 市 1 町 1 村が合併して誕生したまち。愛媛県の東部、四国の高速道路の中央結節点に位置している。紙のまちとしても有名で「大王製紙株式会社」をはじめとする多くの紙製造業があり平成 16 年以降 18 年連続で出荷額が日本一となっている。紙のまちを盛り上げたいと地元女子高校生が始めた「書道パフォーマンス甲子園」は映画にもなり、全国から参加者が集まる。四国のほぼ中央に位置する事から様々な場所へ移動しやすい場所との事。人口約 8 万人のまち。</p> <p>【視察内容】</p> <p>四国中央子ども若者発達支援センターは、子ども若者育成支援推進法に基づく子ども・若者総合相談センター。障がいの有無にかかわらず、39 歳までの子ども若者の相談に応じている。</p> <p>【感想・所見】</p> <p>四国中央子ども若者発達支援センターの愛称は「パレット」で子どもたちの様々な個性や特性が集まり、成長や発達を支援し、社会に送り出すための準備の場としての役割を持つ施設。</p> <p>電話相談・来所相談・訪問相談・発達検査・基幹相談支援事業を行っており、子どもの悩みに誰もが相談出来る体制は素晴らしく、保育士や保健師だけでなく、臨床心理士や精神保健福祉士、言語聴覚士、作業療法士などの専門性のある職業の人が対応してくれる。これは相談する側からするととても安心する事だと感じた。</p> <p>子どもたちがどのように物事を捉えているか、得意なこと、苦手なことは何かを調べるための検査も充実していて早い段階での子どもの発達状況を確認できるのは親としても大変心強い事だと感じた。自分が凄く良いなと感じたのは四国中央市独自で行っている「ことばの検査」である。毎年 4 月に市内全ての保育園・幼稚園の年長児を対象に行っている。「年齢相応の発音が獲得されているか」「独特の発音の癖がないか」「聴力に問題はないか」「唇や舌の形・動きは十分か」など確認してくれる。親としては「自分の子どもが他の同年代の子どもとどこか違いがあるのか?」「ウチの子の発達は普通なのか?遅いのか?」など気になるところはたくさんあるものである。なおさら初めての子どもの場合子育ての経験がない親にとっては相談できる場所があるのは安心するし、子どもの状況を教えてもらえるのは大変ありがたい事だと感じた。</p> <p>地域全体で子どもたちを支援していく仕組み作りは素晴らしいと感じた。親が気になるから調べるのではなく行政が積極的に関わってくれるのは嬉しいと感じた。</p>			

様式第2号

視察研修先	香川県琴平町議会	氏名	野口 康一郎
視察研修項目	琴平町電子地域通貨「KOTOCA」について		
<p>【視察先概要】 琴平町は香川県のほぼ中央に位置し、「讃岐のこんぴらさん」で有名な金刀比羅宮の門前町として栄えてきた歴史と文化の街。観光客は年間約250万人訪れているとの事。人口は約8000人。</p> <p>【視察内容】 新型コロナウイルスの影響で低迷している町の経済を活性化するために令和3年12月より開始。町内におけるお金の地域内循環を促す事で地域経済を活性化させる事、観光事業の推進、非接触の推奨を目的としている。</p> <p>【感想・所見】 運用開始時にプリペイドカードタイプのKOTOCAに5千円分のポイントを付与して全住民に対して配ってスタートしたとの事。最初は利用店舗が少なかったようだが、徐々に店舗も増えていき、利用者も増えたとの事。やはり継続が大事だと感じた。また、1年中使えるのも良いと思う。寒河江の場合は期間が限定されているので通年使える方が利用者も増えていくと感じている。また、紙タイプの物ではないため一度市民の方が持つとチャージさえすれば何回でも利用できるし、紙の場合は一回毎に印刷をしなければならないため無駄になる経費もあると思う。高齢者の利用が多いと聞いて驚いた。しかしそれだけ使い方が簡単なのだとも感じた。</p> <p>全住民に配る事でID管理する事が出来るため、町からの交付金などの手続きがデータを送るだけになるなど業務効率化が図られているのも素晴らしいと感じた。手続きの簡素化は行政や市民にとってメリットがある。</p> <p>地域通貨をアプリやカードタイプのものを採用することで得られるメリットは大きいと感じた。今までは商品券タイプは紙に印刷する時間や換金手続き入金手続きに時間を要したが発行済みのものにデータをチャージするだけで出来れば担当者の負担も軽くなり、受け入れるお店側での取り扱いも簡単になる。入金サイクルもクレジットカードと同じで手数料も無料になるならばお店側としてもメリットがある。</p> <p>しかし、課題もある。利用出来る店舗が少なければ利用者も増えないし、スーパー等でもすでに自社独自のポイント付電子通貨も存在している。既存にあるものとの差別化をどう図っていくかは考えなければならないと感じた。</p> <p>寒河江には現在「チェリンペイ」がある。このチェリンペイを活用する事で地域のお金を循環し更に外貨を稼ぐまちにしていかなければならない。チェリンペイも始まってまだ時間が経っていないので、更に発展していく為には継続していく必要があると思うし、通年使えるようにするべきだと感じた。</p>			